

新聞購読数

池松 孝子

先日、朝日新聞の連載コラムを読んで、かねてから気になっていた新聞の購読者数の減少について考えた。

まず「新聞の部数落ちゆく月々に管理職なりヤジロベエ」の一首が目に入った。現場で板挟みになっている管理職の悲哀だろうか。上下に挟まれる管理職の苦悩を「ヤジロベエ」と。

もう一つ挙げると「新聞を立てて折り曲げ読む人のやがて消えゆくそのめくる音」というものだ。現役で通勤していた頃の車内の光景が懐かしい。日本経済新聞や朝日新聞であったろうか。左右の乗客の邪魔にならないように新聞を縦に折り、めくりながら読むその時の静かな紙の音が思い起こされる。

今も、時にあの懐かしいラッシュユアワーカーの通勤電車に乗ることがある。驚くなかれ、新聞を手に行っているサラリーマンは一人もいない。座っている人から、つり革を持っている人、通勤客が見て（読んで）いるのはみんなスマホだった。この変わり様には驚かされる。この数年でデジタル版に完全に移行しているのだ。

新聞離れが叫ばれて久しい。二五年前に比して、今や一世帯当たりの購読部数は五割を切っているという。一〇年くらい前まで私の住むマンションには、早朝、各新聞販売店の配達員が数人入っていて、彼らのキャリアには配達用の新聞が山と積まれていた。ところが最近、その時間に外に出てみると、以前の半分以下にまで少なくなっていた。

新聞の購読者は、六〇代以上の高齢者を中心に、七〇代以上では八割以上だという。三〇代以下は、二〇%にも届かないといわれる。高齢者は新聞購読を継続し、読むことが習慣になっている。かつては引越したらまず新聞販売店を探したものだだった。

文字からの内容は脳に届きやすいともいわれる。テレビなどの情報は、視聴者に理解されたかどうかには関係なく画面は流れていく。だが若者は言う。スマホで検索すれば、好きな情報に無料でアクセスできる。オンラインメディア情報の信頼度は？